

保健部

<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット報告強化週間（5月）や事例検討会（10月）の実施や校内掲示板を活用したヒヤリハット・アクシデント事例の情報共有を行ったが、報告の必要性への認識を高めることが難しかった。 ・病状の変化に伴って追加された医療的ケアについて、臨時医療的ケア検討委員会を開催（3回）し、指導医からの助言を受けた。また、必要に応じて保護者との懇談を実施したり医療機関からの助言を受けたりした。 ・新入生（1人）について、病状の確認のための主治医面談を実施（1回）した。 ・新たに胃ろう部からの給食ペースト食注入を行う児童生徒や、病状の進行や体調に変化がある児童生徒等について、安全で適正なケアが実施できるよう、部と連携しながら、医療的ケアの内容や方法について保護者や医療機関と検討を重ねた。 ・医療的ケア対象者の中でも特に対応が困難な緊急事態が想定される児童生徒中心に、緊急時対応マニュアルに基づいた訓練（8例）を実施した。発生直後の対処について、より個々に応じた対応方法を検討する必要があるといった課題が明らかになった。 ・健康被害が発生するような異物混入やアレルギーに関するアクシデントが発生することなく学校給食を提供することができた。 ・二次調理に関わる業務を、食形態の検討については各部で、再調理用具等ハード面の管理については給食担当者で行うように業務を分担したが、安全で適切な食形態について検討すること、食形態の変更等の情報を二次調理業務に関わる職員全員に周知することが十分にできなかった。
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1)ヒヤリハット・アクシデント報告の蓄積・情報共有・対策の検討、緊急時対応訓練の実施を通して、職員の危機管理意識を高める。 (2)医療機関や保護者と連携し、安全で適正な医療的ケアを実施する。 (3)看護講師と部が連携し、行事や日々の教育活動での医療的ケアを安全に実施する。 (4)感染症を予防するために、児童生徒の健康管理と衛生管理を徹底する。
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット・アクシデント事例の情報共有およびより有効な対応策の検討について、生活支援部と連携を図りながら進める。 ・安全で適正な医療的ケアの実施に向けて、各部との連携を図る。 ・感染症予防のための健康管理と衛生管理を各部及び防災環境部等と連携して進める。
<p>目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1)ヒヤリハット・アクシデント報告の蓄積・情報共有・対策の検討、緊急時対応訓練の実施等を通して、職員の危機管理意識を高める。 <ol style="list-style-type: none"> ①ヒヤリハット・アクシデントの未然防止に向けて、報告の意義の確認や検討週間の実施など、常に安全について意識できるような働きかけを年間を通して継続的に行うとともに、視覚支援の取り入れ等有効な防止対策を検討するよう働きかける。 ②緊急時対応訓練を実施し、緊急時に予想される状況やその対応策を具体化すると共に、必要に応じて指導医や主治医に助言を受け、適切なマニュアルに修正していく。 ③安全な二次調理実施のために、二次調理室の衛生管理やミキサー等の消耗品の管理を、配膳室と連携して行う。また、各部の児童生徒の食形態について、二次調理に関わる全職員が情報共有できる方法を検討し、実施する。 ④病状の進行等に伴って変化する食形態等について、校内のより専門的な知識を持つ職員とも連携し、検討する場（摂食担当者会）を設ける。 (2)医療機関や保護者と連携し、安全で適正な医療的ケアを実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ①呼吸器を使用する児童生徒や病状や体調が変化する児童生徒の適正なケアの内容について、指導医・主治医からの指導助言を受けつつ判断し、必要に応じて懇談等を通して保護者と合意を図っていく。 (3)看護師と部が連携し、行事や日々の教育活動での医療的ケアを安全に実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ①行事や授業でのケアについて、必要に応じて企画段階から看護師が加わるなどして担当教員と連携し、ケア物品の確認、ケア実施の場所やタイミングの検討、活動や日程の調整などを行う。 ②令和3年度の医療的ケア児校外学習充実事業実施に向け、職員への事業の伝達と具体的な実施マ

	<p>マニュアルの理解を進めるとともに、保護者説明会を開催し、事業の伝達と理解を図る。</p> <p>(4)感染症を予防するために、児童生徒の健康管理と衛生管理を徹底する。</p> <p>①健康カードや健康記録表等の記入による健康チェックや手洗い・換気等の衛生指導及び衛生管理を部と連携して行う。</p>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>(1)ヒヤリハット・アクシデント報告の継続的な蓄積と有効な対策の検討、緊急時対応訓練の実施とマニュアルの見直しができたか。</p> <p>(2)部と共に保護者や医療医機関と連携を図り、安全で適正な医療的ケアが実施できたか。</p> <p>(3)部と連携して検討や情報共有することで、行事や日々の授業でのケアが安全に実施できたか。</p> <p>(4)他分掌や部と連携して全校体制での感染症対応を推進し、児童生徒の健康管理と衛生管理を徹底することができたか。</p>
取組状況・実践内容等	<p>(1)・7月にヒヤリハット報告強化週間、12月にヒヤリハット・アクシデント事例検討週間を実施した。報告内容を周知するためにPC 掲示板にヒヤリハット専用板を掲載した。</p> <p>・7月8月に在宅通学生の関係職員と連携し、7例の緊急時対応訓練を実施した。各訓練で検討した課題と改善策を整理し、基本の緊急時対応マニュアルを作成した。入所通学生の訓練は11月に1例実施した。長良医療センターと連携し、コール体制による緊急時対応の事前打ち合わせを行った。</p> <p>・コロナ対策をはじめとし安全に二次調理を行うための対策を検討した。二次調理室を調理室とし、必要な備品や物品を整えて担当者での打ち合わせを行い、作業内容を周知した。関係職員との打ち合わせや紙面の回覧・配付、二次調理室の掲示等で食形態の周知に努めた。また、業務アシスタントと連携し、二次調理室の衛生管理に努めた。配膳ワゴンの運用や配膳員の補充等を各部と連携して行った。</p> <p>・摂食・口腔ケア実態表を作成し、担当者間で児童生徒の実態や課題を把握し検討した。摂食・口腔ケアのアンケートを行い、必要に応じて個別の情報交換会を実施した。</p> <p>(2)・病状や体調が変化する児童生徒の安全なケアの内容について、指導医・主治医からの指導助言を受けて検討し、保護者との合意を図り、看護師や関係職員間で共通理解して慎重に進めた。</p> <p>・保護者に協力を得て、看護師間の引継ぎ時間を確保し、日々のケア内容の共通理解を図った。</p> <p>(3)・医療的ケア検討委員会や職員会、部連絡等で、安全な医ケア及び学習活動を実施するための教職員と看護師の連携の必要性を呼び掛けた。また、日々の医ケアにおいて課題が生じたときには、看護師と関係職員で検討する場を設けた。</p> <p>(4)・学校における新型コロナウイルス感染症対応について、指導医や長良医療センターの医師、薬剤師等外部の専門家から指導を受け、適宜感染症対応委員会を開いて検討した。対応内容は、職員会や部の連絡会、関係職員の連絡会を適宜設けて、シミュレーションや掲示物など含め伝え方を工夫し、職員に周知した。必要な感染症対策物品を事務局と連携して調達し、第2学習室に保管して管理した。</p> <p>・児童生徒及び保護者、職員、来校者に健康記録表の記入提出を依頼し、健康チェックを徹底した。</p> <p>・感染予防に対応した給食配膳を検討して配膳業務を都度変更し、全校に協力を依頼し、実施した。</p>
評価の視点	評価
(1)ヒヤリハット・アクシデント報告の継続的な蓄積・情報共有・対策の検討、緊急時対応訓練の実施等を通して、職員の危機管理意識を高めることができたか。	A (B) C D
(2)保護者や医療医機関と連携を図り、安全で適正な医療的ケアを実施することができたか。	A (B) C D
(3)部と看護師が連携し、行事や日々の教育活動における医療的ケアを安全に実施することができたか。	A (B) C D
(4)全校体制での感染症対策を推進し、児童生徒の健康管理と衛生管理を徹底することができたか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
<p>(1)○グループでヒヤリハット事例の確認、事案を想定し、注意する点を共通理解することができた。</p> <p>○基本の緊急時対応マニュアルを基に、実態や現状に対応した個々のマニュアルを作成することができた。また、統一した対応方法を職員に周知し、緊急時の体制を整えることができた。</p> <p>○個別の情報交換会にて、関係職員で摂食・口腔ケアの課題を共有し検討することができた</p> <p>▲ヒヤリハット報告内容の周知徹底が難しく、アクシデントと比較してヒヤリハットの報告件数が少なかった。報告内容の周知徹底と報告の必要性への認識を高める方法を検討する必要がある。</p> <p>▲入所通学生の登校の制限により、緊急時対応訓練の実施が途中である。また、事前打ち合わせで明</p>	A (B) C D

<p>らかになった長良医療センターのコール体制搬送時の課題について検討する必要がある。</p> <p>▲食形態情報等の周知と職員間の連携に課題が残った。</p> <p>▲摂食・口腔ケアの専門的な知識をもつ職員と課題を検討する機会を設ける。</p> <p>(2)○病状の変化する児童生徒の医ケアについて、指導医・主治医の指導を受け、保護者の合意を得て、看護師や教職員間での共通理解を進めることで、安全な医ケアに努めることができた。</p> <p>▲登校開始時に医ケア児童生徒が教室に入れない状況を今年度中に改善する必要がある。</p> <p>(3)○看護師と教職員が連絡を密にし、課題に対する改善策を検討し、連携して日々安全で適正な医ケアの実施に努めることができた。</p> <p>▲令和3年度から実施予定の医療的ケア児校外学習充実事業は延期となった。</p> <p>(4)○感染症対応について専門家と連携して検討し、分掌間及び各部が連携し、互いに協力して全校体制で必要な対応をとることができた。</p> <p>○保護者の協力を得て、きめ細かい健康観察をすることができ、児童生徒の健康管理の徹底ができた。</p> <p>○全校職員の協力を得て、感染予防に対応した安全な給食配膳をすすめることができた。</p> <p>▲感染症対策物品の保管場所として、次年度も第2学習室を使用したい。大量の物品を安全に保管できる環境づくりが課題である。</p> <p>▲配膳業務の度重なる変更による関係職員の負担が大きかったため、業務の効率化や負担を軽減するための解決策を検討する必要がある。</p>	
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員掲示板の掲載に加え、紙面での回覧や朝礼での呼び掛け等を行い、ヒヤリハット報告内容の周知徹底と報告の必要性への意識の向上を図る。 ・長良医療センターのコール体制搬送時の課題に対する改善策を検討し、マニュアルを作成して、コール体制を取り入れた緊急時対応訓練を実施する。 ・各部に二次調理担当チーフを依頼し、連携して、食形態・調理手順・アレルギー対応の情報集約と共有を図る。また、二次調理室から必要時に直ぐ連絡が取れる環境作りをすすめる。 ・コア・ティーチャーと連携して、摂食に関して専門的な知識をもつ職員と課題を検討できる体制をつくる。 ・医療的ケア児校外学習充実事業の実施に向け、安全な校外学習を実施するために、指導医・主治医の助言を仰ぎ、十分に検討して、準備をすすめていく。 ・他分掌と連携して、感染症対応物品を安全に保管できる場所の確保及び環境作りをすすめる。 ・関係職員で配膳業務の課題に対する改善策や業務の効率化について検討する場を適宜設ける。また、部と協力して必要時無理なく配膳員の補充に入ることができる体制を年度当初からつくっておく。 ・感染症の状況に応じた対応がとれるように、今後も専門家、他分掌、各部、事務との連携を進めていく。
----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

生活支援部

<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が学校生活を安心・安全に過ごすことができるように、道路状況や気象、児童生徒の実態に応じた登下校時の安全指導、交通安全教室や交通安全活動、搜索訓練、不審者対応訓練を行った。 ・児童生徒会やMSリーダーズが中心となり、あいさつ運動や募金活動、ボランティア活動を行った。また、ドリームアート展、各種作品展、音楽発表等に参加し、児童生徒の創作活動や表現活動を校内外に発信した。 ・ひびきあい週間・月間において、あったかハートフラッグ活動やあいさつ運動、人権啓発放送や人権だより発行等を行った。また、全職員の人権意識の向上やいじめ問題等の未然防止・早期発見を図るべく、教員のチェックシートによる啓発を行った。 ・教育相談に関して、研修会や教育相談だよりの発行を行い、教育相談に関する職員の意識の向上を図った。また、年間2回の教育相談月間に児童生徒のヒアリングを行い、様々な変化に早期に気付くことができるように努めた。その後担当者会議をもち情報共有した。 ・スクールカウンセラー配置に伴う保護者と教職員の相談を年間8回、研修を1回実施した。今年度は生徒がスクールカウンセラー相談を希望し、実施をする事例があった。 ・アンケートより、人権教育の取組について保護者から「わからない」との評価を受けた。
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>(1)児童生徒が学校生活を安心・安全に送ることができるための支援を実施する。</p> <p>(2)児童生徒の実態に応じた、自己肯定感をほぐくむことができる支援を実施する。</p> <p>(3)児童生徒・保護者一人一人を尊重し、受容的に接することができるための支援を実施する。</p>
<p>重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理意識を高め、迅速に組織で対応できる安心・安全な学校となるよう実際的な訓練や研修を行う。警察を中心に外部機関との情報交換を行いながら、より学校の実情、児童生徒の実態に適した体制を確認する。 ・気象の変化や災害、交通状況等、緊急時における対応や引き渡し等の在り方、ヒヤリハットアクシ

	<p>デント報告や情報共有の在り方について保健部、防災環境部と連携して検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に関する情報共有の在り方として、各部会や分掌会、運営委員会での報告を受け、必要に応じて職員会で、児童生徒理解の場面で児童生徒の現状・対応についての共通理解と連携のとれる体制作りを行う。学校生活における対応に加え、不登校傾向の児童生徒についても現状を定期的に確認し、共通理解を図る。 ・児童生徒が学校や地域の一員として、活動する意義や喜びを感じるとともに、部を越えた交流ができる取組を、他分掌や創作活動担当者と連携しながら行う。 ・全職員が児童生徒や保護者一人一人を尊重して受容的に接すること、信頼関係を築くことを図るための取組や職員研修を行う。
<p>目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>(1)児童生徒が学校生活を安心・安全に送ることができるための支援を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①登下校、校外学習におけるスクールバスの安全運行のため、連携・連絡を密に行う。 (担当者、運転手や添乗員、保護者との連携・連絡、掲示板・連絡カードの活用等) ②毎日登下校時校門にて、安全指導とあいさつを交代で行う。 ③捜索訓練や交通安全教室、情報モラルに関わる支援、防災環境部と協力した安全指導（引き渡し訓練、防犯訓練等）を計画する。 <p>(2)児童生徒の実態に応じた、自己肯定感をほぐくむことができる支援を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自己肯定感や連帯感を高めるために、児童生徒会活動、MSリーダーズ活動、学校行事等の部を越えた児童生徒の交流等を積極的に行う。(あいさつ運動、全校集会、昼の放送、金華祭、ボランティア活動等) ②放課後活動や金華祭のチーフ会や担当者打ち合わせ会を行う。(担当者会等) ③充実した創作活動・表現活動が計画的にできるように、創作活動担当者との打ち合わせを行う。(教科会、担当者会、グループ会) <p>(3)児童生徒・保護者一人一人を尊重し、受容的に接することができる支援を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①職員一人一人が人権感覚を磨き、受容的な教育相談や寄り添う支援を行うことができるよう、定期的な確認や職員研修、スクールカウンセラーの活用を検討する。人権に関する取組では、「あったかハート」のキーワードや掲示の他、事前にたよりを発行したり、ホームページに掲載したりすることで取組や意義について保護者に伝わるように発信をする。 (職員研修会、職員会、教員のチェックシート等) ②日常的・定期的な教育相談を継続して行う。スクールカウンセラーの活用では、教育相談研修、児童生徒・保護者相談活動に加え、教職員のコンサルタント等、より有効な活用の意義及び周知の在り方について検討する。職員の危機管理意識を高め、問題の早期発見と迅速な組織支援ができるよう、児童生徒情報交換会を行う。そして状況に応じて、他分掌や他部、コアティーチャー等と連携した支援体制を作る。 (児童生徒情報交換会、職員会、部会、運営委員会、グループ会、ケース会議等)
<p>達成度の判断・判定 あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全に学校生活を送ることができる支援ができたか。 ・児童生徒が自己肯定感をほぐくむことができる支援ができたか。 ・情報共有や研修を行い、一人一人を尊重した受容的な支援ができたか。
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1)・安全指導として毎日登下校時に校門に立ったり、自力通学生の通学経路において危険個所の確認をしたりした。また、防災環境部、保健部と連携し、安全に登下校ができるため児童生徒玄関の調整を行った。また、非常変災時における帰宅確認訓練及び、警報や気象状況に応じた対応を行った。 ・交通安全や捜索、不審者対応に関して、警察からの資料を基にマニュアルを教員間で確認したり、プレゼンを周知したりした。また、職員研修を通して情報モラルについて岐阜北警察署担当者から講話及びアドバイスを受けた。 (2)・自己紹介や学級の取り組み、出来事等を動画やスライドで発表し、それを各学級で見合うことでお互いを知る活動に取り組んだ。金華祭では、児童生徒が発表したい内容やがんばっていること等を動画発表にて発信した。 ・後期からは児童生徒会が中心となり、テーマ決めや金華祭の司会や進行を行った。また、お昼の放送を通して明るい学校づくりに向けた活動に取り組んだ。 ・校内作品展（ドリームアート展）、各種作品展等に参加し、児童生徒の創作活動や表現活動を校内外に発信した。 (3)・ひびきあい活動では、あったかハート活動の取組を始め、人権啓発放送や人権だより発行等を行った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人権意識の向上やいじめ問題等の未然防止・早期発見を図るため、教員のチェックシートによる啓発を行った。 ・教育相談に関しては、研修会や教育相談だよりの発行を行い、教育相談に関する職員の意識の向上を図った。また、年間2回の教育相談月間には、生活アンケートの実施及び児童生徒のヒアリングを行い、様々な変化に早期に気付くことができるように努めた。その後担当者会議をもち情報共有した。 ・スクールカウンセラーの配置に伴い、児童生徒や保護者、教員の相談を年間8回、職員研修を1回実施した。
評価の視点	評価
(1)安心・安全に楽しく学校生活を送ることができる支援ができたか。	Ⓐ B C D
(2)児童生徒が自己肯定感をほぐくむことができる支援ができたか。	A Ⓑ C D
(3)情報共有や研修を行い、一人一人を尊重した受容的な支援ができたか。	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
<p>(1)○スクールバスの運行や通学生、病棟生の登下校について、年度途中に変更や追加されることがあったが、年間を通して大きなトラブルはなかった。</p> <p>▲児童生徒の交通安全、情報モラル等生活安全教育については、スライドによる紹介の他、個別に指導を行った。今後、警察等関係機関の連携を大切にしながら、児童生徒の実態に合った教材や資料を活用して取り組む必要がある。</p> <p>(2)○各学級における自己紹介や学級紹介のスライド作成やスライドの共有活動を通して、他部や他学級のことを知ることができ通学生、訪問生の区別なく交流することができる機会となった。</p> <p>○金華祭週間の行事では、児童生徒が個性やもてる力を十分に発揮しながら創作活動や表現活動に取り組み、動画として発信をすることができた。また、発信した動画に対して、コメントや意見、よい評価をもらうことで、達成感や満足感を得たり自己肯定感をほぐくんだりすることができた。また、ドリームアート展の開催や、各種作品展への参加を通して、児童生徒の作品を通して校内外に当校児童生徒の取組を発信することができた。</p> <p>▲金華祭やドリームアート展について、保護者の参観や外部への情報発信の在り方について課題が残った。</p> <p>(3)○人権教育では、ひびきあい活動において、人権教育月間におけるあったかハート活動や人権啓発放送、人権だよりの発行を行った。児童生徒、保護者、職員が「ありがとう」の気持ちを込めたメッセージを伝え合い人権感覚を啓発する取組となった。また、新型コロナウイルスに関する資料を活用し、児童生徒の実態に合わせた授業を行った。感染者に対しての正しい知識を身に付けたり、人権に関する事例について考えたりすることができた。</p> <p>○教育相談では、研修会や教育相談だよりの発行を行うことで、教育相談に関する職員の意識を高める取組ができた。教育相談月間には、生徒のヒアリングを行うことで、様々な変化に早期に気付くことができるように努める取組となった。</p> <p>○スクールカウンセラーが配置されて4年になり、今年度も保護者や生徒、職員対象に相談や研修の機会となった。生徒からは相談がしやすいとの意見があり、希望している生徒に対して継続的にスクールカウンセラー相談が行われた。</p> <p>▲いじめに関する当校の取組や考え方等の基本方針を保護者や児童生徒に伝えていく必要がある。</p>	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス運行について、関係者間における連携を密にし、乗車票や電話での確認、教室等への掲示を利用した確実な連絡に努める。また、各分掌と連携し、通学生の日常及び非常変災時における安全な登下校の支援に努める。 ・資料やデジタルコンテンツ等を活用しながら、交通安全や不審者対応、情報モラル等、生活安全にかかわる支援を児童生徒の実態や課題に合わせ、定期的、継続的に行う。 ・金華祭や児童生徒会活動、作品展等、日頃の学習の成果を発表できる機会や場所を今後も設定し、自分と友達を大切にできる学校づくりに努める。また、ICTの活用や掲示板を通して、コロナ禍においても、お互いの活動や気持ちを伝え合うことができるように支援を行う。 ・金華祭及びドリームアート展についての反省を受け、目的や時期、開催方法や案内、広報等周知の在り方を検討する。 ・児童生徒に関する情報共有の在り方では、各部会や分掌会等での報告を受け、必要に応じて職員会や各部朝会において、児童生徒理解の場面を設け、児童生徒の現状・対応についての共通理解を行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ（生徒間トラブルを含む）や不登校、問題行動等対応が必要とされる事柄に対し、情報共有や支援の在り方、各教員の役割についての共通理解を図るとともに、早期に学校が組織として対応することができる体制づくりに努める。 ・危機管理意識を高め、迅速に組織で対応できる安心・安全な学校となるよう実際的な研修を行う。より実態、現状に適した体制を確認していくため、警察を中心に外部機関との情報交換を行い、連携を深める。 ・保護者に対して、各種たよりの他、いじめ防止対策基本方針や年間の取組を配付したり、ホームページに載せたりすることで、いじめやコロナ禍における差別等、人権教育に関する取組を分かりやすく発信・周知する。
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

防災環境部

現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初、避難確保計画（土砂災害）と「非常変災時における対応方針（H31.3月改定）」を受けて改訂した防災対策マニュアルを全職員に周知した。 ・5月に岐阜北消防署員の指導の基、火災を想定し病棟通路を一次集合場所とした命を守る訓練、9月に岐阜市都市防災部から講師を招き地震を想定した命を守る訓練を実施した。災害の想定に応じた避難場所を設定した訓練の実施により、災害の状況に応じた避難行動をとることへの職員の意識を高めることができた。 ・ミニ命を守る訓練（6回）を実施したが、計画していたJアラート対応は社会情勢等から判断し実施を見送った。 ・8月に職員命を守る訓練（シュミレーション訓練）を実施した。その反省や改善策を基に、防災対策委員会において本部職員の役割を確認し、本部での迅速・確実な情報掌握の方法や訪問担当者の対応等について対策を検討し、防災対策マニュアルをより実践に即した内容に改訂して、全職員に周知した。また、屋外での長期避難を想定した際の装備品を整える必要があることを確認した。 ・備蓄品の整備を行い、全職員に周知した。 ・12月に防災対策マニュアルの点検・見直しを行い、県から依頼のあった竜巻への対応を追加した。改善点について、今後検討する必要がある。 ・今後も児童生徒の災害時の安全確保のために、長良医療センターとの連携の方法を模索していく。 ・保護者アンケート「緊急時の対応にしっかり備えている」の項目は、「わからない」という回答がある。家庭における防災対策の啓発に努める必要がある。 ・教育財務課より新たに追加された様式を基に毎日点検表（非構造部材）を見直して新しい点検表を作成し、全職員に周知して、安全点検を実施した。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> (1)火災、地震、土砂災害等を想定した訓練と研修を通して、災害に対する職員の危機管理意識を高める。 (2)校内安全点検の実施を通して、日常生活における危険に対する職員の危機管理意識を高める。 (3)感染症予防のための環境整備を進める。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域での防災対策についてキャリア支援部、渉外部と連携して推進していく。 ・気象の変化や災害等、緊急時における対応や引き渡し訓練の在り方について、生活支援部と連携し検討を行う。
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> (1)火災、地震、土砂災害等を想定した訓練と研修を通して、災害に対する職員の危機管理意識を高める。 <ol style="list-style-type: none"> ①改善点を検討し、防災対策マニュアルを見直し、改訂版を職員に周知する。 ②非常変災時の対応や事前の準備等について理解し、児童生徒の安全を守るために必要な行動をとることができるように、火災、地震、土砂災害等を想定した命を守る訓練やミニ命を守る訓練を実施する。 ③より安全で現実的な避難行動がとれるよう、長良医療センターと連携した火災発生時の避難訓練や避難場所が複数になる場合の地震発生時の避難訓練を実施する。 ④非常時に本部を中心とし各担当相互に連携して適切に対応することができるように、防災フローチャートに基づいた訓練を職員研修で実施する。 ⑤児童生徒の災害時の安全確保のために、長良医療センターとの連携の在り方を模索していく。 ⑥屋外避難の場合に必要な装備品や発電機・充電器の整備、校内備品の転倒防止等の対策を進める。 ⑦増加する訪問児童生徒も含め、自宅での防災対策を進めるための情報提供等をキャリア支援部、渉外部と連携しながら進める。

	<p>⑧勤務時間外の災害時児童生徒安否確認の模擬訓練を実施する。</p> <p>(2)校内安全点検の実施を通して、日常的な安全に対する意識を高める。</p> <p>①新たに作成した実施要項に基づき、安全点検を実施し、危険箇所や破損等への処理や改善を行う。</p> <p>(3)感染症予防のための環境整備を進める。</p> <p>①年間を通して、職員による感染症予防のための校内清掃を実施する。</p>
<p>達成度の判断・判定 基準あるいは指標</p>	<p>(1)防災対策マニュアルの改善と職員への周知、児童生徒の安全確保のための保護者との連携を進めることができたか。</p> <p>(1)安全で現実的な避難行動をとることができるよう、避難先や方法を工夫した命を守る訓練を実施できたか。</p> <p>(1)キャリア支援部・渉外部と連携し在宅での防災対策を進めることができたか。</p> <p>(2)安全点検の実施の周知と迅速な処理をすることができたか。</p> <p>(3)感染症予防のための作業計画を立案し、実施することができたか。</p>
<p>取組状況・実践内容等</p>	<p>(1)・令和2年4月改定「非常変災時における対応方針」を受けマニュアルを改訂し全職員に周知した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害における避難確保計画を岐阜市からの指摘をもとに改定した。 ・防災対策本部訓練を実施し、本部職員の動きを確認した。 ・備蓄品の確認と管理場所を整備し全職員に周知した。また、新たにポータブル電源やトランシーバーを整備し、管理責任者を置き管理体制を整えた。 ・引き渡し訓練を実施し、全校一斉引き渡しのケースでの課題を検討、方法を見直した。 ・感染症対策から、命を守る訓練を学級毎に実施した。医療センター通路の一時集合場所としての使用についてセンターの了解を得て、一部希望した学級が通路を使用した訓練を実施した。 ・安否確認訓練を実施し、課題を検討し実施方法を見直した。 ・地震、火災、土砂災害を想定したミニ命を守る訓練を実施した（年6回）。高等部2組の生徒が中心となり高校生防災アクションに取り組んだ。 ・保護者への啓発活動として、渉外部と連携しての「しゃべりっちなながら」への情報掲載等、防災に関する情報を発信した（年4回）。保護者アンケート「緊急時の対応にしっかり備えている」の項目は「わからない」の回答が2人と昨年度より減少した。 <p>(2)・環境教育月間にクリーンアップキャンペーンを実施し、掃除方法について学ぶ機会をもった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全点検を実施し、修理や修繕箇所を把握し、事務部と連携し環境の改善に努めた。 ・つり下げ遊具の金具に関するアクシデントが発生した。 <p>(3)・消耗品、加湿器等物品の購入と管理、全校体制での消毒作業の実施により感染症対策に取り組んだ。</p>
<p>評価の視点</p>	<p>評価</p>
<p>(1)防災対策マニュアルの改善と職員への周知及び、避難先や方法を工夫した命を守る訓練を実施し、非常時に対する職員の危機管理意識を高めることができたか。</p> <p>(2)安全点検の実施を通して、職員の日常生活における危機管理意識を高めることができたか</p> <p>(3)消毒作業の実施や環境整備を図ることにより、感染症対策を進めることができたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>成果・課題</p>	<p>総合評価</p>
<p>(1)○防災対策本部訓練では、本部長を中心とした本部の動きを確認することができた。各種様式を整え、本部が行方不明者等に関する情報をより的確に把握し迅速に対応できるようにした。</p> <p>○引き渡し訓練では、部毎に掌握ができるよう待機場所を調整する、情報共有の手段としてトランシーバーを活用するなど、正確・迅速な実施のために体制を見直した。</p> <p>○高度な医療的ケアの割合が高い当校の児童生徒の実態に応じた防災情報を保護者に提供していくことを、今後も継続していく。</p> <p>▲感染対策から研修を中止したこともあり理解を深める点でのマニュアル周知が不十分だった。</p> <p>▲命を守る訓練が学級毎の実施となり一斉避難した場合に起こりうる課題の把握が難しかった。</p>	<p>A (B) C D</p>

<p>▲地域との連携の取組を進めることができなかった。</p> <p>▲児童生徒が安全に屋外避難できるための備えを進める必要がある。</p> <p>(2)○修繕伺いを用いて状況を把握したことで、特に必要な修理等については至急実施するなど見直しをもった対応ができた。</p> <p>▲安全点検の実施が形式的になっている部分があるので、見直しが必要である。</p> <p>(3)○保健部や教科等担当者等と連携、相談して当校の実態に適した消毒方法を検討、実施できた。</p> <p>▲児童生徒の下校後の消毒作業は、一部の職員の負担が大きいため、体制を検討する。</p> <p>▲今年度から位置づいた駐車場及び消毒作業等感染症予防に関する業務は、当初の予定よりも分掌として担う業務が大きかった。</p>	
<p>来年度に向けての改善 方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルの周知のため、感染症対策を講じつつも実施可能な実践的な訓練を工夫、実施する。 ・より現実に即した対応が可能となるよう、訓練から得られた課題を検討しマニュアルに反映する。 ・安全で現実的な避難行動をとることができるよう、多様な災害の想定、グラウンド以外への避難等、自ら考え判断する状況を付与した訓練内容を検討、実施する。 ・天候等の影響から体調管理することが難しい当校児童生徒が、安全に屋外避難するために必要な装備品の整備を進める。 ・児童生徒の災害時の安全確保のため、長良医療センターとの連携の在り方を模索すると共に、地域に対して情報発信等を行うことで、当校に対する理解啓発を進める。 ・保護者への情報提供のために、各種防災に関する研修会等に参加し必要な情報を得るようにする。 ・安全な環境の整備のため、より確実に点検が実施できるよう安全点検の方法を検討、周知する。 ・無理なく長期に渡り取り組むことができるよう、根拠ある情報に基づいて消毒方法の見直しをする。